

朝妻 一郎 (あさつま・いちろう) 先生

株式会社フジパシフィック音楽出版
代表取締役会長

昭和 18 年 東京生まれ

昭和 41 年 株式会社パシフィック音楽出版に入社

昭和 55 年 常務取締役 就任

昭和 60 年 代表取締役 就任

昭和 60 年 合併により、株式会社フジパシフィック音楽出版と改称
代表取締役社長 就任

平成 17 年 代表取締役会長 就任

平成 16～22 年 社団法人音楽出版社協会

(現、一般社団法人日本音楽出版社協会) 会長

平成 22 年～現在 一般社団法人日本音楽出版社協会 顧問



〈講義概要〉

株式会社フジパシフィック音楽出版の代表取締役会長として、音楽産業の発展に尽力する朝妻一郎氏が、アメリカの音楽産業の現状と展開、そして今後の動向について講義を行った。

講義ではまず、アメリカの音楽産業の現状について、大手レコード会社2社間の競合の実態を中心に、詳細な資料を提示しながら分かりやすく説明。音楽番組のレコード化権の獲得や人事、他社の買収等様々な角度から2社のビジネス戦略について示した。続いて、近年アメリカの音楽市場の売上が増加している実態を提示し、あらゆる産業において「ライバル同士が頑張るとその業界全体が盛り上がる」と言及。2社間の競合が音楽業界へ大きな影響を与えていることを示した。さらに、新たな音楽映像配信サービスの展開や世界のレコード会社の変遷についても解説し、デジタル技術の発展による新たなビジネスの可能性を伝えた。

最後には、学生からの質問にも回答し、国策として展開されている韓国の音楽ビジネスの実態を分かりやすく説明した。学生はアメリカや韓国の音楽ビジネスの現状を踏まえた上で、日本の音楽産業はどのようにあるべきか、グローバルな視点で考えることを学んだ。

《受講生の感想》

アメリカの音楽業界の競争と変遷について詳しく知ることができました。レコード部門、音楽出版共に新しい才能をいかに見つけ、いかに世に売り出すかという、クリエイティブな世界のマーケティングの動きを分かりやすく説明いただき、とても参考になりました。その中でも、「ライバル同士が頑張ると、業界も元気になる」という言葉が印象に残りました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

アメリカの音楽業界についての現状を知ることができた。人材の争奪戦や買収合戦とその経緯はとても興味深く面白かった。世界的レコード会社の吸収・合併の変遷も 80 年代から現在へと順を追って説明してくださって大変理解しやすく知識を深めることができた。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

ユニバーサルミュージックとソニーミュージックはライバル関係として相手会社を意識し合うことにより相乗効果が生まれ、うまくアメリカの音楽業界を盛り上げてきたことが分かりました。これから先も音楽業界がさらに発展をしていくためには、他のメディアなどのコンテンツなどを意識すると同時に、音楽業界内でのライバル関係、競い合いが必要なのだと思いました。

立命館大学・法学部・4 回生

今日の講義では、世界の音楽事情を学ぶことができました。日頃日本の音楽について学ぶことが多かったため、海外の音楽について触れることのできる貴重な機会でした。やはり日本と海外では色々と相違点がみられ、比べながらお話しいただき勉強になりました。また、韓国の音楽がなぜ世界を対象にしているのかという理由は、新しい発見となりました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

個人間でも会社間でもライバルが存在し、互いに競い合うことは大変重要であると感じました。ライバル会社が互いに有能なヘッドを取り合ったという話は少し驚きましたが、そのようにするからアメリカのビジネスは日本よりシビアだけれど活発なのかなと思いました。

立命館大学・映像学部・2 回生

アメリカの音楽業界について全然知らなかったため、大変勉強になりました。今アメリカの音楽業界でインディーズが台頭するチャンスだということをおっしゃっておられ、インディーズ台頭 メジャーによるインディーズ獲得争いという流れが、音楽業界に新たな風を巻き起こすことができると感じました。

立命館大学・政策科学部・3 回生

